

たしかに、正月はめでたい行事です。しかし、昔は元旦を機に、皆がいつせいに歳をとっていました。一休さんは、そんなめでたい日だからこそ、「私もあなたも歳を重ねて、いつかはこのようなドクロの身になる」と人生の不定を説いていたのでしょう。

私たちは、この時期に家族や友人に会うと、「あけましておめでとございます。Happy New Year」と言いつつ、幸せを分かち合います。しかし、一休さんがおっしゃったように、お正月は、年をとったことを実感させられる日でもあります。

めでたい時だからそこ、なかなか目にし難いのが、仏教の説く「不定」の世界なのかもしれません。しかしそれは同時に、誰かと一緒に新年を迎えられたことが、いかに幸せなことであるかを思い知らされるのも確かです。

本年度も、お念仏の御教えを、お浄土の旅の一里塚として一緒に歩ませていただきます。合掌

トロント仏教会 駐在開教使 大内祐真

法要のお知らせ

祥月法要（2023年1月8日）

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に会い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

日時：2023年12月8日（日英両語：午前11時から）

場所：トロント仏教会 / Zoom

※Zoomでの参拝を希望される方は、その旨を <tbc@tbc.on.ca>までお知らせください。

寺院事務所からzoom link を送らせていただきます。

※故人が祥月でない方もご遠慮なくご参拝下さい。



（！）今年第一日曜日が1月1日になるため、第二日曜日の1月8日に祥月法要を勤修します。8日はハミルトン仏教会の祥月法要も午後から入っているため、日英合同の午前11時から勤修します。



年頭の辞

旧年中は大変お世話になりました。カナダ開教区を代表して、謹んで御礼と新春のお慶び申し上げます。一年を振り返るこの時期、ウイルス拡散の規制解除によって家族や友達と過ごせる時間が増えました。ギフトを送る、頂くだけではなく、一緒に過ごせる限りある時間が大切で、ありがたいことだと気付くことが大事ですね。新年の教団からのテーマは「ヘルシー サンガ」を掲げたいと思いません。身体の健康だけではなく、だれもが安心して来れることができる仏教会としていきましよう。

教団のニュースとしては、BCインテリア教会（ケローナ、バーノン、カムループス）に駐在している平野直樹先生が一年の開教使研修を経て、正式に西本願寺から開教使としての辞令が7月1日付で発布されました。また、南アルバータ仏教会には生田ローランド先生が11月1日付で一年の開教使研修が始まりました。

仏教会メンバーの皆様におかれましては、昨年に引き続き教団へのサポートと理解を宜しく願います。 合掌

カナダ開教区総長 青木 龍也



あけましておめでどうござります

お正月が近づくと、ボビー・マクファーリンの「Don't Worry, Be Happy」という曲を聴くことがあります。お正月の歌ではありませんが、彼の歌声はとても優しく、聴くと穏やかな気持ちになれるので、気に入っています。十二月が「師走」と呼ばれるように、僧侶はこの時期に走り回るほど忙しくなるので、この曲を聞いては落ち着きを取り戻しています。

彼はこの曲の中で「Here's a little song I wrote. You might want to sing it note for note. Don't worry. Be happy. In every life we have some trouble. But when you worry you make it double. Don't worry, be happy. Don't worry, be happy now」と歌っています。

それはまるで、私たちがお正月になると「Happy New Year」と挨拶するように、他人の幸せを願っているようにも聞こえるのです。

本日は、新年の挨拶にちなんで、日本の昔話を紹介したいと思います。

お正月を迎えると、京都の人々は、美しい着物を着ては外に出て、新年の挨拶をする際に「お誕生日おめでどうござります」とも言っていたそう

です。なぜなら、昔は自分の生年月日を知らない人が多く、元旦にみんなと一緒に年をとっていたからです。

そんなめでたい日に、一休さんという有名な禅僧も街中を歩いていました。しかし、周りと違ったのは、汚れた衣を身にまとい、頭蓋骨を持ち歩いている奇抜な姿だったということです。

一休さんのこの姿には、皆が驚きを隠せませんでした。有名で人気のある僧侶でしたが、周りのものは、そんな彼の姿を見て、「歳をとって、頭がおかしくなったんじゃないか」と言いはじめるほどでした。

そんな声も気にせず、彼は、ある屋敷を訪ねました。屋敷の主人は、一休さんが正月にわざわざ訪ねてきたことを喜んで戸を開けてました。

しかし、彼の小汚い姿と杖に突き刺さっている頭蓋骨を見て、たいへん動揺し、だんだんと腹が立つてきました。

主人は、「一休さんやい。今日は元旦だ。どうしてそんな汚い衣で挨拶することがあるか。そして、不吉にもどうして骸を見せてくるんだ。人を不愉快にさせるにもほどがある」と言い放ちました。

すると一休さんは、その主人の反応を見て「門松や 冥土の旅の 一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」と歌を詠んだそうです。

佛心

二〇二三年一月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会



年頭の辞

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

まず、2022年2月に始まったロシア連邦のウクライナ侵攻に対して、私たち念仏者は親鸞聖人がお示しくくださった「世のなか安穩なれ」のお言葉を改めて深く心に刻み、武力による他国の主権の侵害を強く非難するとともに、一刻も早くウクライナに平和が訪れることを願ってやみません。

さて、昨年も、世界では新型コロナウイルス感染症の流行が続きました。新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられたすべての方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆様、後遺症を患われている皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、医師や看護師をはじめとする医療従事者の方々、ライフラインの維持に努めておられる方々に深く敬意と感謝を表します。

新型コロナウイルス感染症の流行は、科学技術が発達し、医療も進歩した世の中にあっても、私たちの予想できない事柄が現実起こるということを知らしめました。仏教を説かれたお釈迦様は、この世を諸行無常であると示されました。約2500年たつてもそのことに変わりはありません。そして、この真理をそのままに受け入れることができず、悩み苦しむ私たちの姿も変わることはありません。

それ故にこそ、新型コロナウイルス感染症の流行以前も以後も変わることなく、親鸞聖人が説かれた浄土真宗のみ教えが、

日々悩み苦しむ私たちの生きる支えとなります。阿弥陀如来を中心とするお寺の集まりは、み教えを聞く場であると同時に、同じみ教えを依りどころとする私たちがお互いに支え合い助け合って、安心して集うことのできる場でもあります。

皆さまには、今後も様々な工夫を凝らして、広くみ教えを伝えられることで、お寺に多くの方が集まり、その誰もが心穏やかに過ごせる場所となりますことを願っております。そして、引き続きお寺の活動にご理解とご協力を頂きますことをお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

2023年1月1日

浄土真宗本願寺派

門主 大谷光淳